

あいのう消費者の会

# いきいき通信

発行 愛農消費者の会いきいき通信編集部

連絡先 愛農流通センター名古屋本部

名古屋市天白区井口2丁目903番地

## 毎年どうしていますか？

### お中元について

お中元を贈る季節になりましたがみなさんは毎年どうされていますか？消費者の会のスタッフに、毎年お中元をどうされているか聞いてみました。

贈る時は皆さん、送り先の好みやライフスタイルに合わせて選んで工夫している様子が伺えました。

○あいのうのスパゲティは麺好きな方に好評でした。年輩の方には生しゅうゆや黒怒の合わせ味噌だれ。同年代の子どもを持つ方には、りんごジュースや棒ジュースなど。普段自分が気に入っている物を贈っています。

○同じ商品は送らないように気をつけています。受け取る相手によって商品を替えて、家族構成や嗜好などで商品を選んでいますが毎回悩みます。

○大府の巨峰、みはまっこ（ハウスみかん）等地元の特産品を送ることが多いです。



あいのうセット

○身体に良いものと思うのですがやはり：私の気持ちをはなかなか伝わらないのが現実で、誰もが知っているような百貨店の包装紙で送られるものの方が喜ばれ



山伝さんの干物

ます。○愛農ギフトの魚の切り身や干物を送ります。海の無い長野や岐阜の方なので、魚はとても喜んでいただけます。送る側の私も愛農の安全なもの差し上げることができて、うれしいです。

受け取っていらつしやるお品物については、以下のような回答がありました。

○わが家に頂くお中元も全てが百貨店の包装紙の品物（ハム類、餃子、缶ジュース、焼き菓子の詰め合わせなど）ばかりです。

○愛農のものを送ることで、「食に気を付けている人なんだな」となんとなく伝わるようで、先方からは果物など加工食品でないものをいただくことが多いです。

お中元として贈る人、お中元の変わりにプレゼントをする人など様々ですが、皆さん日頃お世話になっている親族や上司、ごく親しい友人に何かしらのご挨拶を贈っているようです。

一方、年金生活なので、親しいからこそお中元やお歳暮をやめたという回答もありました。お互いに気を遣わせない配慮や、心起きなく話せる間柄も素敵だと思いました。

## 人気は小林さんの桃

— 愛農に聞くお中元 —

愛農の夏のギフト商品カタログ。商品選定方法や人気の商品について愛農に質問しました。

Q1. 愛農オリジナルのギフトはどのように商品選びをしていますか？

A1. 基本的には商品をいただいている生産者、メーカーから提供可能なものの中から選んでいます。大きなメーカーは自社のギフトカタログを持っていますが、そういったものは問屋さんのカタログ（例：ムソー）に掲載されることが多々あるので、かぶらないように心掛けています。しかし、そんなに選択肢がないため、あいのうオリジナル商品を詰合せたものなどを自社で組んだりしています。お客様の送り先様はあいのうで販売するような商品へのご理解がある方かどうか分からないので、商品選択はそのあたりが難しいです。

Q2. どのような点を重視して商品選びをしていますか？

A2. あまり選択肢はないのですが、その中でも万人向けするようなものをと考えています。

Q3. 毎年人気が高い商品はどれですか？

A3. 農産物です。夏であれば桃、冬はりんごです。

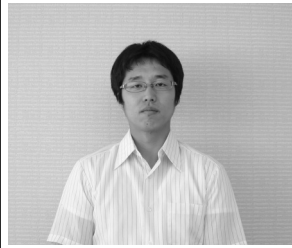
Q4. 今夏の一押しはどれですか？

A4. やはり人気の桃です。先日、生産者の小林裕明さんのところにも行ってきました。

実が付く前の木を見て、苦労話を聞きました。次はパイナップルです。どちらも後世に残したい大事な生産地です。干物セットは、加工品の中でいつも上位にくる人気の品です。山伝さんのところは乾燥機がないので、全て手作業で開き、天日干しで行っています。あいのうの指定の調味料を使っています。

一人でも一品でも多くお届けします

— 出口所長よりご挨拶 —



知多営業所  
出口武史所長

4月より、知多営業所の担当になりました出口武史です。あいのように入社して今年で11年目になります。

入社当時は毎日トラックに乗っての配達業務がメインの仕事で、

その後、農産関連の業務を主に担当させて頂きました。配達業務から

離れ、内勤業務が増えるにつれ、ここ最近では、体がずいぶんまわっていただけ、週4の配達業務に体がついていかず、筋肉痛との戦いでした（涙）。5月に入りようやく体もなれ、これからの夏に向けて今までのなまった体をもとに戻そうと頑張っております。

愛農に入ったきっかけは、大学時代に知り合った、愛農米の生産者兼平飼卵の生産者である三浦さんとの出会いが一番ですが、自分自身の農業に対する考え方があいこの考え方（理念）に似ていたということもあり、あいこの働きで働くことになりました。

早いものであつという間の10年が過ぎましたが、その考えは今でも変わらず、「一人でも、一品でも多くの農家さんや農産物を消費者の皆様に正確に伝え、商品をお届けする」という考えのもと、これからも精一杯頑張りたいと思います。

## 読者からのお便り

○いつもありがとうございます。鶏の解体体験、是非やって欲しいです（Iさん）

○ブルーベリー狩りや丸山さんの畑ツアーなど企画してほしいです！5歳、3歳の我が家の子どもは丸山さんのにんじんを自分で洗って、丸かじりしています。（Nさん）

○道長さんのぬか床で、今、おいしいぬか漬けを毎朝いただいています。「こうなった時は、こうする」みたいなことが分かるといいです。（Hさん）

## 収穫と定植の楽しみ

自給村だより

5月の後半の22日より、自給村の本格的な田植え開始。自給村の田植えは機械を使うので、機械では植えられなかった部分の補植をします。今回は代かき後すぐに植えたい田んぼがあり、田んぼ1枚全部の手植えもしました。

ホトトギスとウグイスの鳴き声を聞きながら、のんびり手植えをするのは初めての体験で、進むにつれ慣れてきて、植え方のスピードが上がり、楽しかったです。

梅雨入り直後の6月5日、（自給村では週末しか作業をしないので）3週間をかけてようやく田植えが終わりました。

6月5日には豊田エコットフェスタにて、自給村のお米で作った五平餅の販売を行いました。とても盛況で、その日のマルシェでいちばんの売り上げだったようです。

畑は、玉ねぎの収穫、トマト、ナス、ピーマン、スイカの固定種（実った後、種を取ることができるもの。通常よくある苗は、種取りができないものが多いです。）の苗を定植。今年は夏野菜の種を取り、また来年植えることが目標です。

6月半ば、梅雨の真っ只中、一雨ごとにどんどん草が伸びるこの季節、草取り、草刈りの日々が続きます。

（伊藤嘉野）



収穫した玉ねぎ

<https://www.facebook.com/jikyumura/>

## 編集後記

今回、私は未だ地震が収まらない熊本をはじめ、豪雨被害のニュースを聞きながら作業をしました。知多営業所の出口所長の農業に関する考え方や自給村の営みに触れながら聞いていたため、ニュースにならない大切なことを受け取ったように感じました。あつて当たり前なこと。本当は大変恵まれて、幸せだということに改めて気付きました。被災地の方々が平穏な日常を一日も早く取り戻せますよう、心からお祈りしています。お見舞い申し上げます。

お中元特集はいかがでしたか？私は商品の選択を通して表現できることが沢山あることを再確認しました。今年も商品選びに悩まれている方のご参考になればと思います。また、読者からのお便りにある、「道長さんのぬか床」についてですが、別号にてご紹介する予定です。お楽しみに☆（ぞう）